

試験報告書

依頼者 ウインセス株式会社

一般財団法人

日本食品分析センター

東京都渋谷区元代々木町52番1号



検体 テアレスキュー

表題 マウスを用いる急性経口毒性試験

2017 年(平成 29 年)04 月 10 日当センターに提出された上記検体について試験した結果をご報告いたします。

マウスを用いる急性経口毒性試験

要 約

テアレスキューを検体として、マウスを用いる急性経口毒性試験(限度試験)を行った。

2000 mg/kgの用量の検体を雌雄マウスに単回経口投与し、14日間観察を行った。その結果、観察期間中に異常及び死亡例は認められなかった。

以上のことから、マウスを用いる単回経口投与において、検体のLD50値は、雌雄ともに2000 mg/kgを超えるものと評価された。

1 依頼者

ウインセス株式会社

2 検体

テアレスキュー

3 試験実施施設

一般財団法人日本食品分析センター 多摩研究所
東京都多摩市永山6丁目11番10号

4 試験期間

2017年04月10日～2017年05月30日

5 試験目的

検体について、OECD Guideline for Testing of Chemicals 420(2001)に準拠し、マウスにおける急性経口毒性を調べる。

6 試験液の調製

検体を40 vol%エタノールで希釈し、250 mg/mLの試験液を調製した。

7 試験動物

5週齢のICR系雌雄マウスを日本エスエルシー株式会社から購入し、約1週間の予備飼育を行って一般状態に異常のないことを確認した後、試験に使用した。試験動物はポリカーボネート製ケージに各5匹収容し、室温23℃±3℃、照明時間12時間/日とした飼育室において飼育した。飼料[マウス、ラット用固型飼料；ラボMRストック、日本農産工業株式会社]及び飲料水(水道水)は自由摂取させた。

8 試験方法

検体投与用量として2000 mg/kgを投与する試験群及び溶媒対照として40 vol%エタノールを投与する対照群を設定し、各群につき雌雄それぞれ5匹を用いた。

投与前に約4時間試験動物を絶食させた。体重を測定した後、試験群には試験液、対照群には40 vol%エタノールをそれぞれ8 mL/kgの投与容量で胃ゾンデを用いて強制単回経口投与した。

観察期間は14日間とし、投与日は頻回、翌日から1日1回の観察を行った。投与後7及び14日に体重を測定し、Leveneの検定を行った。分散に差が認められない場合はStudentのt-検定、分散に差が認められた場合はWelchのt-検定により群間の比較を行った。いずれも有意水準は5%とした。観察期間終了時に動物すべてを剖検した。

9 試験結果

1) 死亡例

雌雄ともにいずれの投与群においても、観察期間中に死亡例は認められなかった。

2) 一般状態

雌雄ともにいずれの投与群においても、観察期間中に異常は見られなかった。

3) 体重変化(表-1及び2)

投与後7及び14日の体重測定において、雌雄ともに試験群は対照群と比べ体重値に差は見られなかった。

4) 剖検所見

観察期間終了時の剖検では、雌雄ともにすべての試験動物に異常は見られなかった。

10 結論

検体について、マウスを用いる急性経口毒性試験(限度試験)を実施した。

その結果、観察期間中に異常及び死亡例は認められなかった。

以上のことから、マウスを用いる単回経口投与において、検体のLD50値は、雌雄ともに2000 mg/kgを超えるものと評価された。

表-1 体重変化(雄)

投与群	投与前	投与後(日)	
		7	14
試験群	29.5±0.5 (5)	35.8±1.2 (5)	38.6±1.8 (5)
対照群	29.5±0.6 (5)	34.7±1.1 (5)	37.0±1.6 (5)

体重は平均値±標準偏差で表した(単位:g)。

括弧内に動物数を示した。

表-2 体重変化(雌)

投与群	投与前	投与後(日)	
		7	14
試験群	27.2±0.5 (5)	29.8±0.7 (5)	33.0±0.7 (5)
対照群	27.1±0.5 (5)	29.8±0.7 (5)	32.8±2.0 (5)

体重は平均値±標準偏差で表した(単位:g)。

括弧内に動物数を示した。

以 上